⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、1,279億円の受取超過であって、前年同期（５兆3,631億円の受取超過）に比べ、５兆2,352億円受取超過額が減少した。収入は、前年同期（７兆8,282億円）に比べ、５兆4,275億円減少して２兆4,007億円となった。一方、支出は、前年同期（２兆4,651億円）に比べ、1,924億円減少して２兆2,727億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

保険の収支は、収入16兆3,000億円、支出14兆9,265億円、差引き１兆3,735億円の受取超過であって、前年同期の１兆8,227億円の受取超過から、4,492億円受取超過額が減少した。

３　国債等・国庫短期証券等（別表１参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	令和７年度第２・四半期 発行（借入）	令和７年度第２・四半期 償還	令和７年度第２・四半期 差引き	前年同期 発行（借入）	前年同期 償還	前年同期 差引き
国債等	358,604	105,465	253,140	390,024	118,286	271,737
国債（１年超）	339,985	85,610	254,375	370,211	96,604	273,607
借入金	18,619	19,854	△ 1,235	19,813	21,682	△ 1,869
国庫短期証券等	853,932	894,457	△ 40,525	1,013,096	1,126,107	△ 113,011
国庫短期証券	758,482	781,007	△ 22,525	899,646	1,012,655	△ 113,009
一時借入金	95,450	113,450	△ 18,000	113,450	113,452	△ 2

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、25兆3,140億円の受取超過であって、前年同期（27兆1,737億円の受取超過）に比べ、１兆8,598億円受取超過額が減少した。国債（１年超）の収支は、発行33兆9,985億円、償還８兆5,610億円、差引き25兆4,375億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入１兆8,619億円、償還１兆9,854億円、差引き1,235億円の支払超過であった。

国庫短期証券等の収支は、４兆525億円の支払超過であって、前年同期（11兆3,011億円の支払超過）に比べ、７兆2,486億円支払超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行75兆8,482億円、償還78兆1,007億円、差引き２兆2,525億円の支払超過であった。一時借入金の収支は、借入９兆5,450億円、償還11兆3,450億円、差引き１兆8,000億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	41,077	△ 63,321	△ 22,244
特別会計等	△ 18,258	63,664	45,406
財政投融資	22,258	△ 23,618	△ 1,360
外国為替資金	1,279	112	1,392
保険	13,735	△ 21,959	△ 8,224
その他	△ 55,531	109,129	53,598
小計	22,819	342	23,161
国債等	253,140	△ 6,599	246,541
国債（１年超）	254,375	△ 3,504	250,871
借入金	△ 1,235	△ 3,095	△ 4,330
国庫短期証券等	△ 40,525	6,256	△ 34,269
国庫短期証券	△ 22,525	1,998	△ 20,527
一時借入金	△ 18,000	4,258	△ 13,742
合計	235,434	—	235,434
調整項目	△ 248	—	△ 248
総計	235,186	—	235,186

㈱１．「一般会計」には、交付税及び譲与税配付金特別会計が含まれている。

２．「調整項目」とは、国庫金が日本銀行代理店の窓口で受払される時点と、日本銀行本店の政府預金が増減する時点との時間的なズレの調整等のための項目である。

３．⑻欄以下の内訳の数字は暫定的なものであって、後に若干変更することがある。

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	令和７年度第２・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還（△）	—	△ 12,294
特別会計の債券売・買（△）	△ 18,220	△ 42,594
財政投融資	—	△ 32,260
国債整理基金	△ 18,220	△ 10,334
その他	△ 214,509	△ 189,353
計	△ 232,729	△ 244,241

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、23兆2,729億円の支払超過であって、前年同期（24兆4,241億円の支払超過）に比べ、１兆1,512億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達及び資金返済はなく、前年同期は１兆2,294億円の支払超過であった。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売・買の収支は、１兆8,220億円の支払超過であって、前年同期（４兆2,594億円の支払超過）に比べ、２兆4,374億円支払超過額が減少した。国債整理基金の収支は、１兆8,220億円の支払超過であって、前年同期（１兆334億円の支払超過）に比べ、7,886億円支払超過額が増加した。なお、財政投融資においては、債券売・買はなく、前年同期は３兆2,260億円の支払超過であった。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、21兆4,509億円の支払超過であって、前年同期（18兆9,353億円の支払超過）に比べ、２兆5,156億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（23兆5,186億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（248億円の支払超過）を除いた収支は、23兆5,434億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、23兆2,729億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（２兆1,329億円）に比べ、2,704億円増加して２兆4,033億円となった。